

平成28年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立放出中学校

平成29年3月

＜校訓＞

自主

協同

責任

＜学校教育目標＞

人間尊重の精神を基盤として、「豊かな心」と「たくましい心身」、「確かな学力」を育む
教育活動を推進する

大阪市立放出中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1. 学校運営の中期目標

(現状と課題)

全体として、生徒・保護者は学校の取組みに対して肯定的な意見を持ち、安定した学校運営ができてい
る。しかし、全体に高位層が少なく、低位層が多い学力の二極化が進んでいる現状である。生徒・保護者
アンケートにおける家庭学習についての質問には、保護者からの否定的な意見が多いことから、教職
員の授業力アップに努め、基礎学力の向上を図ることが喫緊の課題である。

現在、学校は一定落ち着いた状況にあるものの、問題行動も少なからずみられ、まだまだ予断を許さな
い状況である。今後も引き続き、学校・地域・家庭の連携を密にしていく必要がある。

(中期目標)

【視点 学力の向上】

平成28年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に普段(月～金曜日)1日当たり
どれくらいの時間、勉強をしますか」の項目について、「している(どちらかといえばしている)」と答える
生徒の割合を平成24年度より向上させる。

(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

平成28年度の全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがあると思う」の項目につい
て、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を平成24年度より向上させる。

(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

平成28年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における実施学年の合計得点を、平成24年度より
向上させる。

(カリキュラム改革関連)

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

平成28年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に普段(月～金曜日)1日当たり
どれくらいの時間、勉強をしますか」の項目について、「している(どちらかといえばしている)」と答える生徒
割合を平成27年度より向上させる。

(カリキュラム改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

平成28年度の全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがあると思う」の項目につい
て、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を平成27年度より向上させる。

(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

平成28年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における実施学年の合計得点を、平成27年度より
向上させる。

(カリキュラム改革関連)

3. 本年度の自己評価結果の総括

本校は基礎学力の定着と向上を目指して、日々の授業の工夫ならびに基礎的・基本的事項の繰り返し徹底を
図ってきた。その結果として、平均正答率において数学Aが2.2ポイント、数学Bが2.0ポイントとそれぞれ大阪市平均
を上回っているものの、国語Aは0.1ポイント、国語Bは1.4ポイントそれぞれ下回っている。

無解答率においては、数学Aを除いては、すべてで大阪市平均より高い割合となってしまう。

今後は大阪市平均との比較で良好といえる状態を維持すること、全国平均との比較における安定したポイントアッ
プにつながる取り組みを進めなければならない。

生徒たちの健全育成に向け、学校・地域・家庭との一層の協力体制づくりに努めるとともに、継続した規律ある集
団づくりを推進していることは評価できる。今後も期待している。

学校の雰囲気は大変よい。引き続き学力向上、体力向上のため、授業を大切にする指導の徹底とともに、英語力
向上と興味関心を引き出す工夫された授業、ICT授業、教職員相互授業参観など意欲的に取り組む。

今後も小中連携、若手教員育成をさらに充実させる。

大阪市立放出中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】 平成28年度の全国学力・学習状況調査における「家で、学校の授業の復習をしている」の項目について、「している(どちらかといえばしている)」と答える生徒の割合を平成27年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【区分 その他】 教職員の指導体制を確立させる。 (マネジメント改革関連)	B
指標 ・全教職員に、職員会議等の機会を通じて、校訓、学校教育目標等を周知徹底(認知度100%)する。	
取組内容②【区分 組織運営】 組織的な学校運営体制を確立させる。 (マネジメント改革関連)	B
指標 ・全教職員で学期に1回、「運営に関する計画・自己評価」について、協議・再確認する場を設定することで、各校務分掌間の連携を適切に機能させ、各組織の業務の充実に努める。	
取組内容③【区分 授業研究を伴う校内研修の充実】 個人や組織の資質向上をめざし、研修の充実に努める。 (マネジメント改革関連)	A
指標 ・全教員、研究授業を1回以上実施する。 ・学期に1回以上の校内研修会を行う。	
取組内容④【区分 学校評価の充実】 学校評価の実施と公表を適切に行う。 (ガバナンス改革関連)	A
指標 ・学校協議会を年3回実施するとともに、自己評価(生徒・保護者・アンケート等の実施)の充実に努めるなど、学校評価活動を充実させ、自校の学校運営や教育活動の改善に活かす。	
取組内容⑤【区分 学校・家庭・地域の連携の推進】 ・家庭・地域・関係諸機関との連携を充実させる ・家庭訪問などを通じて、家庭と学校との連携を密にし生徒一人ひとりの生活態度の把握に努める。 ・保護者・地域への情報発信を行う。 (ガバナンス改革関連)	B
指標 ・地域会合へ積極的に参加する。 ・祭礼巡視などは職員全体が分担し、すべて参加する。 ・問題行動が起こった場合、家庭訪問などを行い対応する。また、その事柄を職員間で共有し、全教職員で対応する。 ・学力向上子どもの健全育成にむけての教育支援コミュニティづくりをすすめる。 ・公務支援システムによるメール発信を積極的に行う。 ・月1回学校だよりの発行及びWEBページ更新を行う。	
取組内容⑥【区分 小中一貫した教育の推進】 組織的・計画的な小中連携を進める。 (カリキュラム改革関連)	A
指標 ・管理職による連絡会を年間10回程度行う。 ・小中連携アクションプランに基づいて、年1回の小中交流行事、体験授業を実施する。また、小中連携委員会を年2回開催し、教科内容の連携等を図る。	

取組内容⑦【区分 自主学習習慣の確立】 生徒の自主的・主体的な学習態度を育てる。 (カリキュラム改革関連) 指標 毎朝、集会時以外は、朝学習または読書を行う。各教科、できる限り宿題を与えるようにする。	B
取組内容⑧【区分 各教科(国語)】 - 教科書の進度に従って、漢字の読み書きの定着を図る。 - 教材を工夫し、授業に活用する。 - 授業の予習・復習に活用できるプリント等を提示する。 (カリキュラム改革関連) 指標 - 漢字ノートを活用し、単元ごとの新出漢字や小学校で学習した漢字を反復練習させる。 - 視聴覚教材を用いて、教科書の学習内容を深く理解できるよう努める。 - 授業や朝学習の時間、家庭学習の時間を通して、漢字や熟語等を復習し、基礎学力の定着を図る。 また、小テストを実施し、学習内容の確認を行う。	B
取組内容⑨【区分 各教科(社会)】 - 小テストやテスト前、朝学習などの学習プリントを活用し、教科書の内容に従って基礎基本の定着を行う。 - 資料集や地図帳、新聞、映像などの教材を工夫し、授業に活用する。 - テスト後のワークシート活用や夏休み・冬休みの課題を精選し、授業の予習復習等に活用できる家庭学習教材を提供する。 - 歴史的・公民的分野の教科書の複数使用に際し、使用方法を検討し、歴史・政治・経済社会に関する異なる視点や多面的捉え方を可能とする機会として主体的学習に役立てることができるようにする。 (カリキュラム改革関連) 指標 - テスト前の対策プリントを実施し、基礎学力の定着を図る。 - 資料集や掛け地図などの視聴覚教材を充実させる。	B
取組内容⑩【区分 各教科(数学)】 - 朝学習で計算力の向上に努める。 - 少人数授業での学習や個人の興味・関心を持つ授業に努める。 - 問題集やプリントを用いて、問題を解く力をつけさせる。 (カリキュラム改革関連) 指標 - 各学年、各学期、問題集の点検を行う。各学年、毎週最低1日は朝学習を行う。 1、3年は週1時間、2年は毎時少人数授業を実施する。	B
取組内容⑪【区分 各教科(理科)】 - 副教材を使用し、知識の定着を図る。 - 実験・観察等のワークプリントを通して、理科への興味・関心を高め、考察を通し、科学的な見方や思考力を育成する。 (カリキュラム改革関連) 指標 - 各単元終了後、副教材を活用したり、小テストを実施し、類題を定期テストに取り入れる。 - 生徒の状況を考慮し、指導単元に応じた演習実験を含めた実験・観察を可能な限り行う。	B
取組内容⑫【区分 各教科(音楽)】 - 歌唱における技能の向上を図る。 - 器楽における技能の向上を図る。 - 鑑賞する能力の向上を図る。 - 音楽的な感受性を豊かにし、表現の工夫を行えるよう努める。 指標 各学期2回(3学期は1回)の表現テストを通じて個人の技能を把握する。生徒には次への課題を示すことで技能の向上を実現させる。 どのような表現が好ましいかを示すことで、表現豊かな演奏へとつなげる。(自己実現率70%とする)	B
取組内容⑬【区分 各教科(美術)】 - 美術に関心を持たせ、意欲的に表現し、制作する喜びを感じさせるように指導する。 - 作品に興味を持たせ、鑑賞を深めて能力の向上を図る。 (カリキュラム改革関連) 指標 - ワークシートの活用や生徒一人一人に応じた個別指導などにより、アイデアの構想をしっかりと練らせて、表現する喜びや達成感を持たせ、意欲の向上に繋げる。 - 授業の導入時や作品の完成時などに鑑賞する機会をつくる。また、鑑賞し感じ取るだけでなく、具体的に作品の良さや工夫、気づきなどが表れるように指導をし、能力の向上を図る。	B
取組内容⑭【区分 各教科(保健体育)】 - 日常の保健体育授業では、教科書の内容を理解させ、興味を持たせるよう努める。 - 基礎体力の向上を図る。 (カリキュラム改革関連) 指標 - 視聴覚教材や独自に作成した補助教材などを活用する。 - 体育の授業では毎回補強運動を実施する。 - 体力強化のため、運動機器を活用する。	B

取組内容⑩【区分 各教科(技術・家庭)】 ・環境整備を心がけて授業をすすめる。 ・実習を通し、自ら学び工夫する意欲を高める。 指標 ----- (カリキュラム改革関連) ----- ・授業準備や環境整備をしたうえで、授業を行う。 ・定期的に作品の進捗状況を確認する。	B
取組内容⑪【区分 各教科(外国語(英語))】 ・英語への関心・意欲を引き出す。 ・語彙力の充実を図る。 ・「表現」の力をつける ・自己学習の促進と支援を図る。 指標 ----- (グローバル化改革関連) ----- ・生徒の英語での発話が多い授業を行う。 ・定期的に語句の小テストを行い積み上げを図る。 ・取り組みやすい課題を提供し、頻繁に確認する。	A
取組内容⑫【区分 教育環境の整備】 学習環境の整備に努める。 指標 ----- (マネジメント改革関連) ----- ・生徒にとって安全・安心な教育環境づくりをめざし、「安全(防犯・防災)マニュアル」に基づき日常的に点検するとともに、全教職員で確認する場を年2回設ける。	B
取組内容⑬【区分 進路指導】 ・進路指導体制を整備し、学級担任を中心とした進路指導を行う。 ・進路情報の収集を計画的に行い、適切に情報を活用する。 ・さまざまな職業形態を知り、自らの特性が発揮できる進路選択を考えさせる。 指標 ----- (カリキュラム改革関連) (ガバナンス改革関連) ----- ・進路説明会を年に2回実施し、的確な情報提供を図る。 ・旧第二学区および府全域の進路希望について10回以上(府は3回)集計結果を公開し、進路指導に資する。 ・学期に2回または折に触れて、学年集会などで進路についての注意喚起、啓発を投げかける。	B
取組内容⑭【区分 特別支援教育の充実】 ・支援を必要とする生徒と共に生きる集団の育成に取り組む。 ・教育的ニーズを把握する取り組みを行う。 ・教職員間の情報交換を活発にし、課題解決のためにケース会議を開く。 指標 ----- (カリキュラム改革関連) ----- ・全ての学級活動や学校行事にクラスの一員として参加する。 ・年1回の家庭訪問、学期ごとの懇談、新1年生保護者アンケートを行う。 ・月に1回の情報交換と年に1回のケース会議を開く。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①: 学校は安心できる落ち着いた環境であり、非常に高い水準にある。
 取組内容②: 組織的に教職員の力がよく発揮された学校経営がなされている。
 取組内容③: 全教員が1回以上の研修を行い、また、学期に1回の全体研修会を行った。
 取組内容④: 学校協議会では、「学校の教員はよくやっている。地域も学校と連携しサポートしたい。HP閲覧ポイントが前年を超えている。」と高い評価を得た。
 取組内容⑤: 地域・保護者・外部機関との連携を密にとることができた。
 取組内容⑥: 小中管理職・教務主任間および授業・部活動体験が十分に実施できた。
 取組内容⑦: 従前の朝の学習プリント以外にも、今年度はTOEICのリスニングを朝の学習の時間におこなった。自主的にテキストを開けて学習に取り組む姿が見られた。
 取組内容⑧: 漢字ノートを活用した学習の習慣が身に付いてきている。必要に応じて視聴覚教材を活用し、今後も知識の定着を図る。
 取組内容⑨: テスト対策プリント、ワークを活用し知識の定着を行うことができた。教科書の複数使用による、多面的な捉え方ができるよう進めることができた。
 取組内容⑩: 定期的に朝学習で、計算の演習を行った。習熟度別分割授業を行った。問題集やプリントを用いて問題演習を行った。
 取組内容⑪: 問題演習をし、知識定着に努めることができた。実験も事故なく、安全に行えた。必要に応じて実験と、演示実験を利用して進めることができた。
 取組内容⑫: 歌唱、器楽ともに演技に対する意欲を高めることができた。また鑑賞や創作にも積極的に取り組むことができた。
 取組内容⑬: アイデアの中間チェックを行うことで、比較的、全員が作品の構想をしっかりと練り制作に結び付けることができた。作品の発表を行ない、一人一人の主題や表現の工夫、制作意図などを感じさせ、作品の鑑賞をさせることができた。
 取組内容⑭: 2年生の体力テストは全国平均を上回ることができた。水泳については習熟度は上がってきた。持久力の向上を目指したい。
 取組内容⑮: 実習中心に意欲的に授業を進めることができた。教室の整備もできてきている。
 取組内容⑯: IT及び分割授業を計画的に行うことができた。C-Netの授業内容も充実し、言語活動が活性化した。
 取組内容⑰: 生徒の安全・安心につながる規範意識の指導が徹底された。また、各種点検・指導により環境整備もすすんでいる。
 取組内容⑱: 進路情報の迅速な収集と共有に努め、共通理解を図ることができた。
 取組内容⑲: 通常学校の学級活動や泊行事・遠足・職場体験などの学年行事、体育大会・文化祭などの学校行事にクラスの一員として参加できた。
 ・1学期に家庭訪問、面談を行ったほか、折に触れ保護者との面談を行った。新入生保護者アンケートは1月に配付した。・毎月の学年会で情報交換した。11月にはケース会議を兼ねて、巡回相談を実施した。3年生のSさんについては、訪問支援員さんを変えて数回のケース会議を行った。

次年度への改善点

取組内容①: 生徒たちの健全育成に向け、学校・地域・家庭との協力体制いとともに、規律ある集団づくりを引き続き推進する。
 取組内容②: 授業を大切にしている指導の徹底とともに、興味関心を引きだすICT授業充実、教職員相互授業参観など意欲的に取り組む。
 取組内容③: 授業者も参観者もともに研鑽するように工夫する。
 取組内容④: 学校協議会3回実施を基本とする。引き続きHP閲覧ポイントを前年よりアップさせる。学校の日常を十分に発信することで地域コミュニティづくりを進める。
 取組内容⑤: 引き続き保護者・地域・外部機関との連携を深める。
 取組内容⑥: 教科間連携等を発展させる必要がある。
 取組内容⑦: 家庭学習課題を各教科で出しているが、未提出生徒も少なからずいる。放課後学習会などでやりきらせて、提出率を上げていく必要がある。
 取組内容⑧: ICT機器の活用方法について検討する必要がある。また、「書く力」の向上に取り組む。
 取組内容⑨: 1学年に複数教員が入ることにより、進度や成績など綿密な打ち合わせをする必要がある。
 取組内容⑩: ICT機器を効果的に活用していく。
 取組内容⑪: 引き続き安全に注意しながら実験を行っていく。問題演習や宿題等を継続し、成績アップに取り組む。
 取組内容⑫: 教材のさらなる精選。効果的な指導法について研究する。
 取組内容⑬: 意欲的に制作に取り組めるよう、鑑賞の方法や教材の工夫をする。表現技法などのトレーニングを行い、能力の向上を図る。
 取組内容⑭: 引き続き体力向上を目指し、授業でのトレーニングに工夫を加えていく。持久力の強化を図る。
 取組内容⑮: 同じく実習中心の授業で、授業を進めていく。
 取組内容⑯: 3年間を見越したプロジェクトを立て、英語科教員全員で取り組む。
 取組内容⑰: 学期ごとの安全点検や防犯教室等を実施し、今後も成果へつなげたい。
 取組内容⑱: 中高のより密接な連携。進路書類作成等の事務作業の簡素化。
 取組内容⑲: 特別な教育的ニーズをもつ生徒を支え励まし合う学級集団づくりの推進。
 ・授業のユニバーサルデザイン化の研究・推進。

大阪市立放出中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 道徳心・社会性の育成】 平成28年度の全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがあると思う」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を平成27年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を示す指標	進捗状況
取組内容①【区分 いじめへの対応】 ・教育相談を奨励し、保護者と連携をしながら子どもの実態把握に努める。 (カリキュラム改革関連) 指標 ・年2回、長期休業後に実態アンケートの実施、年1回の教育相談・教育相談アンケートを実施する。	B
取組内容②【区分 安全対策】 ・防犯啓発講話や警察署による防犯教室を実施する。 ・学期ごとに校内の安全点検を行い、生徒の安全確保に努める。 (マネジメント改革関連) (ガバナンス改革関連) 指標 ・点検シートを作成し、それをもとに管理作業員とも連携をとり、修理、改善する。	B
取組内容③【区分 防災教育の推進】 ・防災災害救助安全確保計画に基づき、それぞれが災害時に実働できるようにする。 (マネジメント改革関連) 指標 ・消防署に来てもらい、避難訓練を計画的に行う。	B
取組内容④【区分 美化・環境整備】 ・校内美化に努める。 (マネジメント改革関連) 指標 ・美化点検週間を設け、美化意識を高める。防犯担当署と連携を取り、掃除用具の点検、補充を行う。	B
取組内容⑤【区分 人権を尊重する教育の推進】 ・年間指導計画を作成し計画的・系統的に人権教育をすすめる。 ・3年間を通して系統立てた平和学習を行う。 ・視聴覚教材、読み物教材を利用し、人権教育を実践する。 (カリキュラム改革関連) 指標 ・年間指導計画を立て、教職員が共通理解する。 ・1年生はヒロシマ・ナガサキ(原爆)、2年生はオキナワ(地上戦)、3年生世界の紛争から考えていくという、3年間の流れを確立する。 ・学習指導要領内容の4項目について(主として自分自身に関すること、主として他の人とのかかわりに関すること、主として自然や環境などのかかわりに関すること、主として集団や社会とのかかわりに関すること)学年の実態に応じた教材を使用し、道徳の時間に実践する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①: 教育相談などを通して実態と把握し、教職員が一丸となって対応した。 取組内容②: 防犯教室に加え薬物乱用防止教室を行った。 学期ごとに校内安全点検を行い、生徒の安全確保に努めた。 取組内容③: 避難訓練を行い、消防署による防火訓練も行うことができた。 取組内容④: 美化点検週間を設定し、生徒の美化意識の向上に努めた。 取組内容⑤: 1学期の平和教育の取り組みを2学期の文化祭のクラスの展示につなげた。道徳の教材を使った授業を学年の教師全員で計画的に取り組んだ。
次年度への改善点
取組内容①: 「いじめ」を未然に防ぐために保護者との連携を深めながら教育相談などを通して生徒の実態把握につとめる。 取組内容②: 生徒の実態に応じた取り組みを計画する。 今年度と同様に安全点検を行っていく。 取組内容③: 避難訓練の実施時期を検討する必要がある。 取組内容④: 日頃からの生徒の美化意識をさらに高める必要がある。 取組内容⑤: 今年度と同様に平和教育に取り組む。道徳の授業の取り組みをまとめ、次年度以降に活かせるようにしたい。

大阪市立放出中学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 健康・体力の保持増進】 平成28年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における実施学年の合計得点を、平成27年度より向上させる。 (カリキュラム改革関連)	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【区分 健康な生活習慣の確立】 ・毎月遅刻防止週間を設定し、時間を守る生徒の育成に努める。 NOチャイムDAYを実施し自ら時間を守る意識を高める。 ・健康の保持・増進を図る知識を身につけさせる。 ・健康診断で疾病が見つかった生徒に、早期の治療を勧める。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 ・毎月の「保健だより」で保護者、生徒への啓発をする。 ・治療が必要な生徒に治療勧告用紙を診断後と1学期末の懇談時、2回発行する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①: 「遅刻防止週間」を設定し遅刻を防止するとともに、時間を守る生徒の育成に努めた。 「保健だより」を発行し、保護者、生徒への啓発を行った。 ・治療勧告用紙を発行し、早期の治療を勧めた
取組内容①: クラス・学年あらゆる機会を通じて、時間を守る意識を高める取り組みを行う。 未治療の生徒への勧告をさらに勧める必要がある。

体育大会実行委員会

大阪市立放出中学校

平成28年度 最終評価

今年度の状況
久しぶりの好天気に恵まれ、ここ3年でできなかったPTA種目まで、無事にこなすことができた。 準備は、前日の早い段階から始め、生徒のてきぱきした行動にも助けられ、予定よりも早くにおえることができた。 競技は、途中、生徒の違反行為があり中断するハプニングもあったが、係生徒もスムーズに行動し、予定時間より若干はやく終了することができた。 競技の内容的には、昨年の反省にあったプログラムの順番に工夫を加え、学級対抗大縄跳びをはじめ、リレーや個人種目とも一生懸命な姿勢が印象に残った。特に、学級の応援がよくまとまり、全体的に良く盛り上がった大会となった。 後片付けも係生徒のきびきびした動きで、早く終えることができた。 全体練習、学年練習もスムーズに行うことができた。
今後の問題点
・3年体育委員の態度が開閉会式の先頭でだらしないのが気になる場所であった。 ・保護者が生徒席に入り込んでくることがあり、注意しにくいことがあった。 ・教職員数の減少により、生徒席の係の先生の数を確認しにくい。 ・競技中に、ゼッケンの外れる生徒が多くあった。 ・3年生の一部が応援グッズを持ち込むことがあった。
来年度に向けて・改善点等
学級全員が協力する大縄跳びは今年も好評であったが、他にも(たとえば綱引きなど)競技として考えていければと思われる。 反省アンケートに、入場行進もできるのではないかという意見があり、検討したい。 教職員の数が減る中、係の分担にも工夫が必要である。

文化祭実行委員会

大阪市立放出中学校

平成28年度 最終評価

今年度の状況

- ・舞台発表時、インタビュー形式で人権問題にかかわる事案がおきた。
また、部活動紹介のビデオについても懸念される場面があった。
- ・午前中のプログラムが早く進んだため、発表を見られなかった保護者がいた。
- ・舞台発表時、換気も行ったが、体調不良者が1年生で少し出てしまった。
- ・芸術鑑賞会では沖縄の古典を鑑賞した。
- ・前日準備で1年生ステンドグラスの展示場所の変更がおきた。
- ・1、3年生で学年予算が足りなかった。

今後の問題点

- ・展示場所の熟考、教職員の人数。
- ・プログラムの工夫。
- ・実施時期

来年度に向けて・改善点等

- ・文化祭のプログラムを改善する必要がある。
(部活動の文化部には普段の取り組みを発表してもらい、芸術鑑賞会とのだきあわせなど) → 確実な時間が確保される。
- ・スライドやビデオについては1週間前までに完成させ、実行委員(管理職)で必ずチェック、確認する体制作り。
- ・クイズ形式の発表のあり方の検討。

性教育推進委員会

大阪市立放出中学校

平成28年度 最終評価

今年度の状況

3学年を通して、[からだ編・いのち編・こころ編]の性教育冊子を数年前から使用している。

1年生では、からだ編を使用し、ビデオ「こんにちは13歳」を視聴させ、思春期のからだの変化(二次性徴)について学習を進めた。

2年生では、いのち編とこころ編を使用し、ビデオ「ミラクル オブ ラブ」を視聴し、命の大切さ、出産について学習を深めた。

3年生では、エイズをはじめ性感染症について学習を進めた。また、助産師さんを招いての出前授業も行い、出産や、育児についても学習することができた。

今後の問題点

1年で使用している「こんにちは13歳」の、ビデオの中身自体はとても素晴らしいが、作られたのがかなり以前でとても古いので、それに代わるものはないか、検討していきたい。

他にもいい教材がないか、調べていきたい。

来年度に向けて・改善点等

ここ数年、性教育のパターンが決まっており、それに準じた形で授業が進められている。大きな問題があるわけではないが、マンネリ化がないわけでもなく、新しい教材やビデオ、資料を発掘していく必要があるのではないかと考えている。

特に視聴覚教材については力を入れていきたいと考える。

平成28年度 学校関係者評価報告書

大阪市立放出中学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価は概ね妥当である。

全体として、生徒・保護者は学校の取組みに対して肯定的な意見を持ち、安定した学校運営ができている。今後も教職員の授業力アップに努め、安定した学力の定着が課題である。

現在、学校は一定落ち着いた状況にあるものの、問題行動も少なからずみられ、まだまだ予断を許さない状況である。学校・地域・家庭の連携を密にしていく必要がある。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：学力の向上

平成28年度の全国学力・学習状況調査における「家で、学校の授業の復習をしている」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を平成27年度より向上させる。

（カリキュラム改革関連）

平均正答率において数学Aが2.2ポイント、数学Bが2.0ポイントとそれぞれ大阪市平均を上回っているものの、国語Aは0.1ポイント、国語Bは1.4ポイントそれぞれ下回っている。

無解答率においては、数学Aを除いては、すべてで大阪市平均より高い割合となってしまう。

今後は大阪市平均との比較で良好といえる状態を維持すること、全国平均との比較における安定したポイントアップにつながる取り組みを進めなければならない。達成状況の評価に関しては妥当である。

年度目標：道徳心・社会性の育成

平成28年度の全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがあると思う」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を平成27年度より向上させる。

（カリキュラム改革関連）

定期的なアンケートや教育相談も実施できている。生徒の登下校時、表情も穏やかであり、明るくあいさつができる等、落ち着いた学校になっている。引き続き学校の日常を発信し、学校・保護者が向き合える環境づくりの一層の充実を期待している。

達成状況の評価に関しては妥当である。

年度目標：健康・体力の保持増進

平成28年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における実施学年の合計得点を、平成27年度より向上させる。

（カリキュラム改革関連）

毎授業の最初に行っている補強運動に敏捷性や瞬発力の向上を図るトレーニングを加えることで、体力面の向上を目指した。昨年度の校長経営戦略予算購入器機も体力・運動能力の向上に役立っている。

体力得点の比較から、男子6種目、女子5種目で全国平均を上回っており良好といえる。

昨年を大きく上回る結果に大変満足している。達成状況の評価以上に評価できる。

3 今後の学校運営についての意見

生徒たちの健全育成に向け、学校・地域・家庭との一層の協力体制づくりに努めるとともに、継続した規律ある集団づくりを推進していることは評価できる。今後も期待している。

学校の雰囲気は大変よい。引き続き学力向上のため、授業を大切にする指導の徹底とともに、英語力向上と興味関心を引き出すICT授業、教職員相互授業参観など意欲的に取り組み、今後も小中連携、若手教員育成もさらに充実させてほしい。